

Speaker Notes



IBM Software Group | Rational software

IBM® Rational® ClearQuest®

ClearQuest レコードのエクスポート

Rational software

@business on demand.

© 2007 IBM Corporation
Updated August 13, 2008

The slide features a blue background with a circular pattern of dots. The IBM logo is in the top right corner. The text is centered on a white background. A horizontal bar with various icons is located below the main text. The bottom right corner contains the 'business on demand' logo and copyright information.

このモジュールでは、IBM Rational ClearQuest のレコードをエクスポートする方法について説明します。

Speaker Notes

モジュールの目的

- モジュールの内容
 - ▶ レコードのエクスポート
- このモジュールで習得できること
 - ▶ レコードのエクスポートの方法を理解できる
 - ▶ 関連するすべてレコードをエクスポートする必要があることを理解できる



IBM Rational ClearQuest では、ClearQuest データベースからデータをエクスポートするツールが提供されています。エクスポートしたデータを他のアプリケーションや他の ClearQuest データベースに使用できます。このモジュールでは、既にスキーマデザインに関する知識があり、ClearQuest 7.0 以降のバージョンを使用していることを前提としています。以前のバージョンの ClearQuest では、**ClearQuest エクスポートツール**が個別に提供されていましたが、ClearQuest 7.0 では、この機能は、ClearQuest クライアントに含まれています。

他の ClearQuest データベースにデータをエクスポートする場合には、ClearQuest インポートフォーマットを選択すると、適切なフォーマットのファイルが作成されます。他のアプリケーションなどにエクスポートする場合には、それ以外のフォーマットのオプションも選択できます。詳細につきましては、後で紹介します。

Speaker Notes

関連レコードのエクスポート

- 必要な ClearQuest レコードをすべてエクスポート
 - ▶ レコードタイプ1にレコードタイプ2を参照するフィールドがあり、レコードタイプ2にレコードタイプ3を参照するフィールドがある場合、すべてのレコードタイプをエクスポート
 - ▶ エクスポートの順番は重要でない
- エクスポートしたレコードを別のスキーマリポジトリに属するユーザーデータベースにインポートする場合で、エクスポートするレコードが Users を参照している場合
 - ▶ レコードをインポートする前に、ユーザー管理のエクスポート機能 (ユーティリティ>エクスポート) を使用してユーザ情報をエクスポート
 - ▶ ClearQuest クライアントのエクスポート機能を使用して、Users レコードをエクスポート
 - ▶ 注意: ユーザー情報のインポートは、ユーザー管理のインポート機能でのみ可能
- 他のアプリケーション用にUsersレコードをエクスポートするには、ClearQuest クライアントのエクスポート機能を使用

ClearQuest からレコードをエクスポートするには、まずスキーマを熟知することが重要です。基本のレコードタイプから始めて、そのレコードタイプの参照フィールド、または、参照リストフィールドで参照しているレコードタイプのリストを作成します。さらに、そのレコードタイプが参照しているレコードタイプをすべてリストにします。

また、選択リストフックで、リストが他のレコードタイプから作成されていないかを調べ、それらのレコードタイプもリストに追加します。

エクスポートしたレコードを別のスキーマリポジトリに属するClearQuest データベースにインポートする場合で、そのレコードがUsers レコードを参照している場合には、ユーザー管理のエクスポート機能(ユーティリティ>エクスポート)を使用して、ユーザー情報をエクスポートします。ClearQuest クライアントでもUsers レコードをエクスポートできますが、ClearQuest データベースへのインポートは、ユーザー管理のインポート機能でのみ可能です。

例: ClearQuest エクスポート

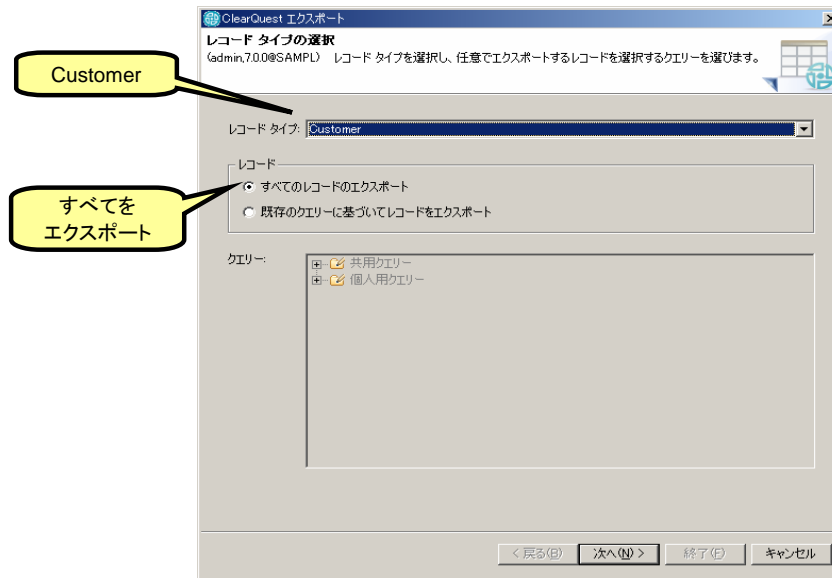
- DefectTracking スキーマをもとに作成された ClearQuest サンプルデータベースをエクスポート



ここからのスライドでは、ClearQuest のエクスポートの手順を見ていきます。例として、DefectTracking スキーマをもとに作成された ClearQuest サンプルデータベースをエクスポートに使用します。

ここでは、状態なしレコードのエクスポートしますが、状態ありレコードのエクスポートの方法も同様です。

Customer レコード

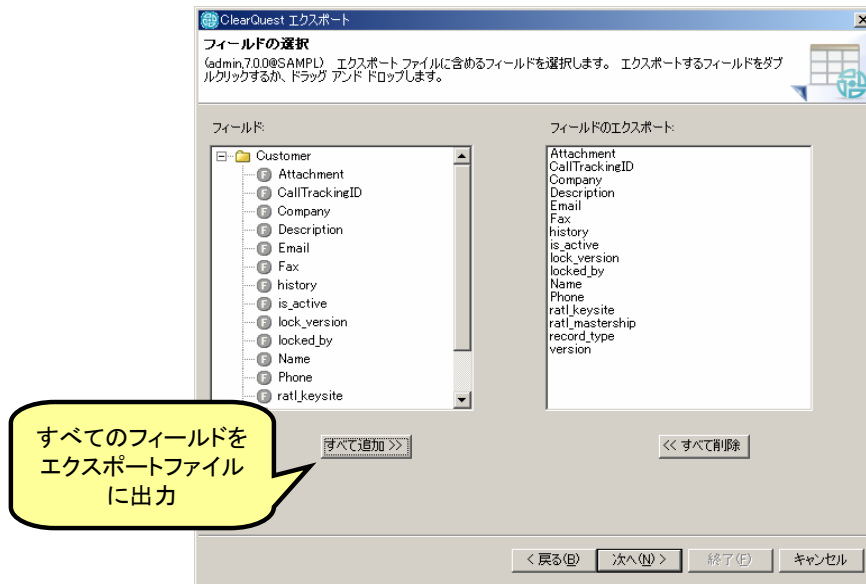


エクスポートツールの最初のステップでは、レコードタイプ、使用するクエリーなどの、エクスポートに関するデータの情報を選択します。

ウィザードを開始するには、**ファイル>エクスポート>レコード...**を選択します。レコードタイプとして **Customer** を選び、**"すべてのレコードのエクスポート"** または **"既存のクエリーに基づいてレコードをエクスポート"** のどちらかのオプションを選択します。この画面では、**"すべてのレコードのエクスポート"** が選択されています。

次へ をクリックします。

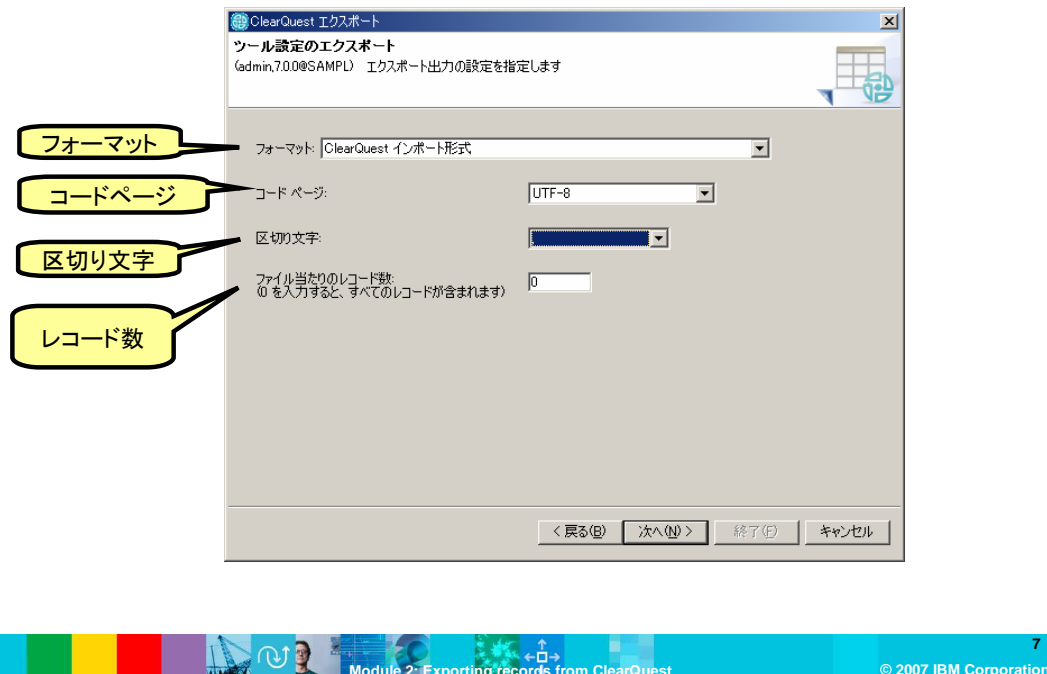
Customer (続き)



次の手順では、エクスポートファイルに含むフィールドを選択します。[すべて追加] をクリックします。あるいは、フィールドをダブルクリックして、特定のフィールドのみを追加することもできます。

次へ をクリックします。

Customer (続き)



エクスポートツールの次のステップでは、出力情報を設定します。

エクスポートファイルのフォーマットを選択します。フォーマットとしては、ClearQuest インポート形式、区切りテキスト、XML の3つの選択があります。ClearQuest インポート形式を選んだ場合には、コードページ、区切り文字、そしてファイルに含まれるレコード数を指定できます。

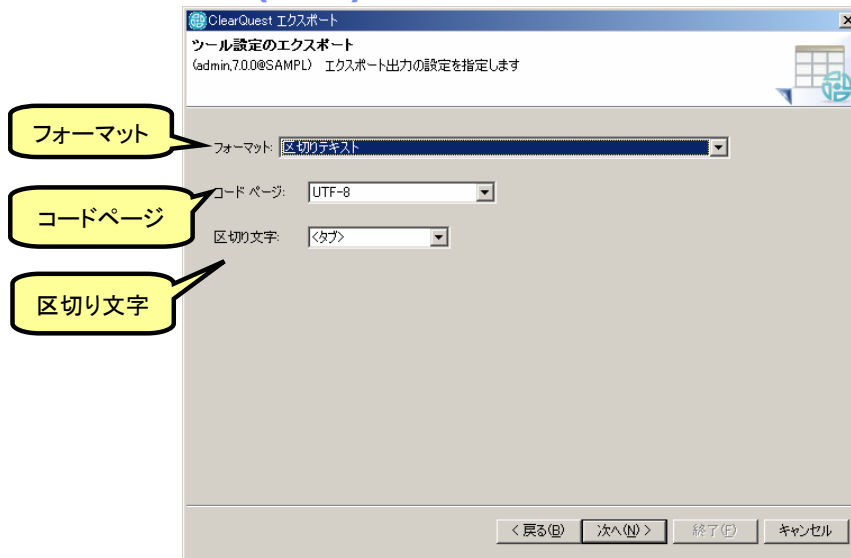
コードページは、ファイルの文字セットです。ClearQuest ヘルプに詳細の情報があります。この例では、UTF-8 を指定しています。

次に区切り記号を指定します。区切り記号として、カンマ、セミコロン、コロン、パイプ、タブが使用できます。この例では、カンマが区切り記号として選択されています。

最後に、ファイルに含むレコード数を指定します。0を指定すると、すべてのレコードが含まれます。

次へ をクリックします。

Customer (続き)

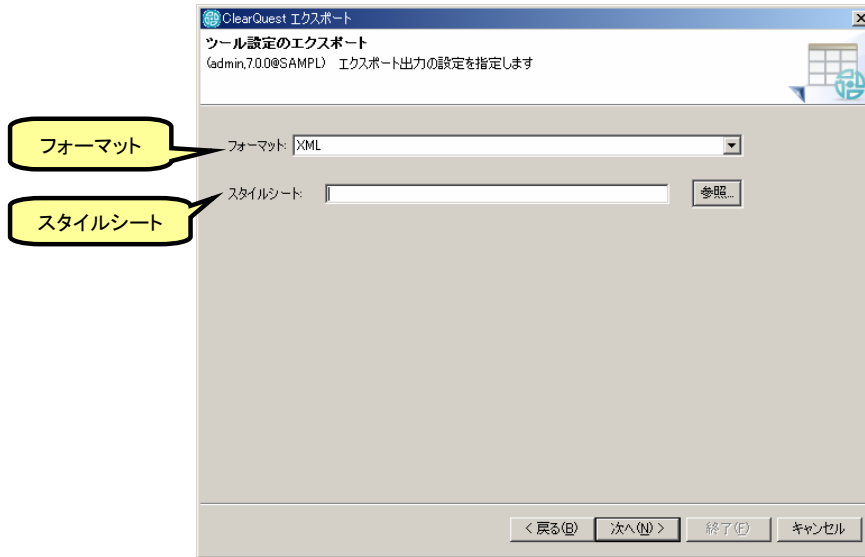


フォーマットとして区切りテキストを選んだ場合には、コードページと区切り文字を指定できます。

この画面は、エクスポートファイルのフォーマットとして、**区切りテキスト**を選択した場合の例です。コードページを選択します。ここでは、UTF-8 が選択されています。区切り文字を選択します。ここでは、タブが選択されています。

次へ をクリックします。

Customer (続き)



フォーマットとして、XML を選択した場合には、スタイルシートを指定します。

この例では、XML が選択されています。
適切なスタイルシートを参照ボタンを使用して指定します。

次へ をクリックします。

Customer (続き)

The screenshot shows the 'ClearQuest エクスポート' dialog box. It has a title bar with a close button. The main area is titled 'ファイル名の指定' and contains the following fields and options:

- エクスポート ディレクトリ:** C:\Temp% (with a '参照...' button)
- エクスポート ファイル名:** Customer_records.txt
- オプション:**
 - 履歴ファイル名: Customer_history.txt
 - 重複ファイル名: Customer_duplicates.txt
 - 添付ファイル名: Customer_attachments.txt
- 添付ファイル ディレクトリ:** %Temp% (with a '参照...' button)

At the bottom, there are four buttons: '< 戻る(B)', '次へ(H) >', '終了(E)', and 'キャンセル'.

Callouts on the left side of the dialog point to the following fields:

- エクスポート ファイルの ディレクトリ (points to 'エクスポート ディレクトリ')
- エクスポート ファイル名 (points to 'エクスポート ファイル名')
- 履歴ファイル名 (points to '履歴ファイル名')
- 重複ファイル名 (points to '重複ファイル名')
- 添付ファイル名 (points to '添付ファイル名')
- 添付ファイル ディレクトリ (points to '添付ファイル ディレクトリ')

エクスポートツールの最後のページでは、作成するエクスポートファイル名を指定します。

エクスポートファイルのディレクトリを指定します。

レコード情報を入力するファイルを指定します。このページで指定するレコードファイル、履歴ファイルなどの、すべてのファイル名が重複しないように注意します。

その他の履歴、重複、添付をエクスポートする場合には、オプションを選択し、ファイル名およびディレクトリ名を指定します。通常、状態なしレコードのエクスポートの場合には、レコード情報以外のエクスポートは必要ありませんが、必要な場合には、他の情報も指定します。

添付ファイルディレクトリには、ClearQuest データベースに添付されている実際のファイルがすべて出力されます。

入力がすべて終わりましたら、**終了** をクリックします。

Customer (つづき)

ClearQuest エクスポート

ファイル名の指定
(admin.7.0.0@SAMPL) エクスポート ファイルのファイル名を入力します。 既存ファイルはエクスポート中に上書きされます。

エクスポートディレクトリ

エクスポートファイル名

エクスポートディレクトリ: C:\Temp% 参照...

エクスポートファイル名: Defect_records.txt

オプション

履歴ファイル名: Defect_history.txt

重複ファイル名: Defect_duplicates.txt

添付ファイル名: Defect_attachments.txt

添付ファイルディレクトリ: C:\DOCUMENT1\ADMIN1\LOCALS1\Temp% 参照...

<戻る(B) 次へ(H)> 終了(F) キャンセル

前のステップで、フォーマットとして、区切りテキストまたは、XML を指定した場合には、エクスポートディレクトリとエクスポートファイル名のみを指定します。他のオプションは指定できません。

エクスポートディレクトリとファイル名を指定して、終了 をクリックするとエクスポートファイルが作成されます。

まとめ

- レコードをエクスポートする順番は重要でない
- 関連するすべてのレコードタイプをエクスポート
- エクスポートの方法は、状態なしレコードタイプ、状態ありレコードタイプのどちらでも同じ
- インポート先によってファイルフォーマットを選択

詳細情報:

ClearQuestオンラインヘルプ(スタート>プログラム>IBM Rational>IBM Rational ClearQuest>IBM Rational ClearQuest ヘルプ)



まとめますと、ClearQuest からのエクスポートの手順は、インポートほど複雑ではありません。レコードをエクスポートする順番は重要ではないからです。すべての関連したレコードをエクスポートすることもできますし、一部のレコードのみをエクスポートすることもできます。状態なしレコードタイプ、状態ありレコードタイプのどちらの場合でもエクスポートの方法は同様です。エクスポートフォーマット、区切り文字、コードページなどのオプションを選択でき、作成するエクスポートファイルに関してもオプションがあります。詳細に関しましては、ClearQuest オンラインヘルプを参照ください。

フィードバック

IBM Education Assistant 向上のためのご意見・ご要望をお送りください。
いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

- このモジュールは参考になりましたでしょうか
- このモジュールによって問題を解決、または疑問にお答えできましたでしょうか
- 改善のためのご意見をお寄せください

以下をクリックしてeメールを送付ください:

mailto:iea@us.ibm.com?subject=Feedback_about_RCQ_Module2_Exporting_ja.ppt



IBM Education Assistant の向上のため、お客様のご意見・ご要望をお送りください。いただいたご意見・ご要望は今後の参考にさせていただきます。

Trademarks, copyrights, and disclaimers

The following terms are trademarks or registered trademarks of International Business Machines Corporation in the United States, other countries, or both:

ClearQuest IBM Rational

Rational is a trademark of International Business Machines Corporation and Rational Software Corporation in the United States, Other Countries, or both.

Product data has been reviewed for accuracy as of the date of initial publication. Product data is subject to change without notice. This document could include technical inaccuracies or typographical errors. IBM may make improvements or changes in the products or programs described herein at any time without notice. Any statements regarding IBM's future direction and intent are subject to change or withdrawal without notice, and represent goals and objectives only. References in this document to IBM products, programs, or services does not imply that IBM intends to make such products, programs or services available in all countries in which IBM operates or does business. Any reference to an IBM Program Product in this document is not intended to state or imply that only that program product may be used. Any functionally equivalent program, that does not infringe IBM's intellectual property rights, may be used instead.

Information is provided "AS IS" without warranty of any kind. THE INFORMATION PROVIDED IN THIS DOCUMENT IS DISTRIBUTED "AS IS" WITHOUT ANY WARRANTY, EITHER EXPRESS OR IMPLIED. IBM EXPRESSLY DISCLAIMS ANY WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE OR NON-INFRINGEMENT. IBM shall have no responsibility to update this information. IBM products are warranted, if at all, according to the terms and conditions of the agreements (for example, IBM Customer Agreement, Statement of Limited Warranty, International Program License Agreement, etc.) under which they are provided. Information concerning non-IBM products was obtained from the suppliers of those products, their published announcements or other publicly available sources. IBM has not tested those products in connection with this publication and cannot confirm the accuracy of performance, compatibility or any other claims related to non-IBM products.

IBM makes no representations or warranties, express or implied, regarding non-IBM products and services.

The provision of the information contained herein is not intended to, and does not, grant any right or license under any IBM patents or copyrights. Inquiries regarding patent or copyright licenses should be made, in writing, to:

IBM Director of Licensing
IBM Corporation
North Castle Drive
Armonk, NY 10504-1785
U.S.A.

Performance is based on measurements and projections using standard IBM benchmarks in a controlled environment. All customer examples described are presented as illustrations of how those customers have used IBM products and the results they may have achieved. The actual throughput or performance that any user will experience will vary depending upon considerations such as the amount of multiprogramming in the user's job stream, the I/O configuration, the storage configuration, and the workload processed. Therefore, no assurance can be given that an individual user will achieve throughput or performance improvements equivalent to the ratios stated here.

© Copyright International Business Machines Corporation 2007. All rights reserved.

Note to U.S. Government Users - Documentation related to restricted rights-Use, duplication or disclosure is subject to restrictions set forth in GSA ADP Schedule Contract and IBM Corp.

